



◎道路祭の舉行

東京市道路網の完成を期して道路を司る神を祭り、併せて一般市民の道路に対する理解を得しめ、愛護の精神を高めるため、東京市の後援の下に道路祭舉行會が主催となつて、六月六日午後一時から東京市道路祭が日比谷公會堂に於て盛大に舉行された。

式は實行委員長渡邊鐵藏氏の開會の辭に初まり、嚴肅なる祭典に引續き東京市土木局長近新三郎氏の道路現況報告、舉行會總裁伯爵清浦奎吾氏の式辭に次いで、道路關係功勞者表彰式が行はれた。

表彰者は故元東京市長後藤新平氏、前市長堀切善次郎氏

をはじめ九十八名であつた。なほ内務大臣安達謙藏氏、鐵道大臣江木翼氏、東京府知事牛塚虎太郎氏、東京市長永田秀次郎氏、道路改良會副會長内田嘉吉氏等の祝辭があり、表彰者を代表して大岡大三氏が答辭を述べて式を終つた。此より先舉行會總裁伯爵清浦奎吾氏は宮中に參内、東京市道路完成によせられたる陛下の大御心に對し奉り御禮を言上するところがあつた。

式後大公會堂に滿員の參會者の爲に（イ）映畫、國の文化は道路から（ロ）漫談、道、路、途、大谷内越山氏、同電車と圓タク、徳川夢聲氏（ハ）レビュー、ペーブメント、スポーツ行進曲（日本劇場合唱舞蹈團演）等の餘興が催されたが一同それ等の餘興に歡を盡し、道路祭の萬歳を三唱して同五時過ぎ散會した。

總裁式辭竝に感謝狀を贈呈せられた功勞者は次の通りである。

道路祭舉行會總裁式辭

茲ニ本日ヲトシ多數貴紳ノ賀臨ナ辱フシ東京市道路祭ヲ舉行ス

ルハ余イ洵ニ光榮トスルトコロナリ

昭和六年六月六日

顧ルニ東京市ノ道路ハ久シク現代都市ノ道路タルノ形態ヲ備ヘ
ス晴ルレバ黃塵萬丈ノ陋巷ト變シ雨降レハ泥濘靴ヲ没スルノ惡

路ト化シ剩ヘ輓近自動車ノ急激ナル發達ハ無鋪装ノ道路ヲ破壊
スルコト甚シク市民ノ苦惱ト損失トハ實ニ計ルヘカラサルモノ
アリシナリ然ルニ大正九年畏クモ東京市路面改良ノ資トシテ御

内帑金參百萬圓御下賜ノ御沙汰ヲ拜シタルヲ以テ東京市ハ聖旨
ニ副ヒ奉ルヘク直ニ大規模ノ路面改良事業ヲ起シタルヲ始メト
シテ爾來帝都復興事業其ノ他ニ依リ國及市ニ於テ銳意工事ヲ施行シタル結果市内ノ道路ハ其ノ面目ヲ一新シ多年世人ノ唱導シ
タル鋪装道路ノ普及ハ今ヤ全市道路面積ノ過半ニ達スルニ至リ

タルハ眞ニ欣懐ニ堪エサルトコロナリ、此ノ時ニ當リ都下各種
團體ノ主催ニ依リ東京市道路祭ヲ舉行シ鋪装ノ普及ヲ禮讃シ優
渥ナル聖恩ヲ感謝シ奉ルト共ニ東京市ノ道路ニ關シ特ニ盡瘁セ
ラレタル諸氏ノ顯著ナル功勞ニ對シ感謝狀及記念品ヲ贈呈シ併
セテ交渉道徳ノ涵養・道路愛護思想ノ啓發、路上工作物ノ整理、
街路ノ綠化、街路照明ノ普及改善並街路ノ清潔保持ニ關スル宣
傳ヲ行ヒ以テ市民福祉ノ増進ニ資スル所アラントス希クハ各方
面ノ共鳴ニ依リ我國最初ノ試ミタル本道路祭ノ效果ヲ發揚スル
ニ至ランコトヲ一言所懷ヲ陳ヘテ式辭トス

東京市道路祭總裁 伯爵 清浦 奎吾

祝 蘭

東京市道路改良ノ事業大ニ進ミ自動車ノ通行スル道路ノ鋪装普
及シタルヲ機トシ本日道路祭ヲ執行セラル、ハ洵ニ欣快トスル
所ナリ

惟フニ街路ノ鋪装タル獨リ交通上ノミナラス都民ノ保安衛生等
其ノ效果ノ及フトコロ頗ル廣汎ニシテ之ガ良否ハ都市文化ヲ表
徵スルモノナルヲ以テ同志胥謀リ東京市路面改良ノ急務ヲ唱道
シテ其ノ實現ヲ期スルカ爲メ道路改良會ヲ創設スル所アリ爾來
之ガ研精討究ニ力メ遂ニ克ク東京市路面改良計畫ノ大綱ヲ樹テ
時ノ政府ト府市當局トニ建議シ機ニ臨ミ意見ヲ當路ニ進言シタ
ルコト亦一再ナラス歲月流レテ茲ニ十有餘年方今東京市路面鋪

裝普及ノ盛觀ニ逢フ是レ固ヨリ市民諸氏ノ協力ト當局ノ奮勵努
力トニ依ルヘシト雖モ之ガ爲メ本會設立當初ノ目的モ亦半ハ達
成セラレタルモノト謂フヘク轉々欣懐ニ堪ヘサルモノアリ希ク
ハ維持管理ノ宜シキナ得ルト市民諸氏ノ愛護トニ依リ近代都市
生活ノ要求ニ副ハシコトニ爰ニ道路祭ニ方リ聊カ所懷ヲ陳ヘテ

祝辭トナス

昭和六年六月六日

感謝状を贈呈せられたる功労者

道路改良會副會長 内田嘉吉

元復興局技師 同

池邊稻彥 通生

同

東京市技師

伯爵後藤新平

元復興局書記官

廣瀬久周

岩井芳通

同

東京市助役

菊池慎三

衣斐清

宮尾舜治

元復興局書記官

岡田周

細野芳通

直木倫太郎

復興事務局書記官

羽生雅則

忠造

太田圓三

元復興局書記官

西村輝一

香彥

大岡大三

復興事務局書記官

佐藤茂助

生彦

笠原敏郎

元復興局書記官

大野定男

忠藏

吉田茂

元復興局事務官

上原六郎

造

笹井幸一郎

元復興事務局技師

鈴木榮一郎

忠

桐島像一郎

元復興局技師

佐藤茂助

藏

河北一郎

元復興事務局技師

田中熙

彥

茂庭忠次郎

元復興事務局技師

佐藤茂助

彦

安倍邦衛

元復興局技師

田中豐彦

彦

山田博愛

元復興事務局技師

佐藤茂助

彦

牧野雅樂之丞

元復興事務局技師

田中清彦

彦

元復興事務局技師	同	宮内義則	元東京市技師
元復興事務局技師	東京市技師	森田三郎	金子源一郎
元復興事務局技師	近藤安吉	城戸鎮吉	井下清
元復興事務局技師	田沼實	寺田治	小川榮次郎
元復興事務局技師	寺田元治	成瀬勝武	神谷秀吉
元復興事務局技師	藤岡長敏	永田秀次郎	谷井陽之助
元警視廳警視	丹羽鋤彦	藤岡長敏	阿部喜之丞
東京市長	荒木宏孟	中村琢次郎	大里常弘
東京市道路局長	池田宏孟	寺田六郎	西川武雄
元東京市土木局長	近藤彦七郎	黒川一治	寺田六郎
東京市土木局長	元東京市主事	同	小川榮次郎
元東京市區劃整理局長	同	元東京市主事	吉武正
元東京市技師	同	元東京市主事	大道彰
元東京市主事	同	稻堀根山	長谷川幸之助
	同	杉萱	吉武正
	同	浦場順治	本葉耕
	同	密藏	恩恵
	同	治義一	匡同

東京市技師

同

元 東京市技師

東京市主事

東京電氣株式會社照明課長

小池啓吉

高橋甚也

武藤新吉

松岡淺太郎

太田二郎

宮長平作

日本石油株式會社

合資會社

栗原源藏

鈴木辰五郎

大倉土木株式會社

株式會社

飛島組

大倉組

竹田組

齊藤助六

橋本組

工業株式會社

株式會社

大林組

合名會社

水野組

合資會社

株式會社

間島組

株式會社

鹿島組

清水組

株式會社

間島組

◎都市交通機關統制運動

都市に於ける交通機關を統制せなければ、都市内交通の完全を期することが出来ないので、之を市に於て統制經營することの必要なことは、常に唱導さるゝ所であつたが、今回大阪市に於ては之が統制の實現を圖るため、市営軌道の經濟に依つて擴張された道路上に、私設會社の乗合自動車の主營が許され、之と道路費用を負擔した軌道が競争する如きは、負擔の公平を期する上に於て、許すべきでないと言ふことを決議し、左の意見を内務大臣に提出し、市會議長白川朋吉、副議長上田孝吉の兩氏は安達内相に面會陳情した。之が統制の可否及其の方法に關しては、學問上又は實際上攻究すべき幾多の問題がある。何れ批判するであらうが、此種運動は識者の注意を要する。

都市交通機關統制ニ關スル意見書

本市ハ夙ニ決定シタル市是ニ基キ電氣軌道ノ普及發達ニ努メタル結果現在軌道亘長百糸投下資本一億圓ヲ超エ市内ニ於ケル重

要ナル交通機關タル地位ヲ占ムルニ至レリ然ルニ軌道事業ノ業績ハ大正十二年度迄ハ人口並乗車回數ノ増加ニ伴ヒ毎年五分内外ノ増進ヲ示セルニ同十三年度以降ハ一時停頓シ(大正十五年)度ヲ最高トシテ漸次減退ノ状勢ヲ呈シ最近益々其ノ度ヲ加ヘ軌道經濟ハ全ク行詰ノ状態トナル是レ一面一般經濟界不振ノ影響ニモ因ルヘシト雖モ主トシテ新興市内交通機關タル自動車殊ニ乗合自動車ノ著シキ發達ニ伴フ打撃タルコトハ争フヘカラサル事實ニシテ又街路交通ナシテ今日ノ如ク複雜混亂ノ狀ヲ呈セシムルニ至レルモ亦是ニ外ナラズ

元來軌道ハ道路ニ敷設スルチ本則トシ其ノ軌道敷ニ對スル用地費ハ勿論路面ノ鋪装竝ニ條間及其ノ左右二尺ノ道路ノ維持修

繕ハ軌道經營者ノ負擔スル所ニシテ殊ニ本市ニ於テハ現在民營

乗合自動車ノ路線ニ當レル主要街路ハ大體ニ於テ軌道事業實ヲ

以テ新設擴築シタルモノニシテ道路ニ對シテハ相當多額ノ費用ヲ負擔セルモノナリ然ルニ之ト競爭ノ關係ニ在ル乗合自動車ハ

路線費トシテ何等ノ資金ヲ投下セス軌道事業ニ於テ施設シタル

是等ノ設備ヲ道路ナルカ故ニ恰モ自己營業設備ノ如ク利用セリ其ノ經營ノ難易同日ノ論ニアラス從テ之ト競爭ノ立場ニ在ル軌道事業ノ不利ナルコト亦自明ノ理ナリ

若シ是等ノ實情ヲ無視シテ民營ノ對抗機關力續々トシテ許サル

ルカ或ハ現在以上ニ其ノ配車數ノ增加、車體ノ增大等ヲ認メラルコトアランカ道路交通上ノ諸問題ハ暫ク措キ遂ニハ公營ニ係ル軌道事業ノ根底ヲ危フスルニ至ルヘク甚憂慮ニ堪ヘス就テハ將來ニ於ケル都市交通ハ道路ヲ管理シ又ハ其ノ道路ニ關スル費用ヲ負擔シ且ツ重要交通機關ヲ運用セル都市自體ヲ主トナリテ統制ヲ圖ルコト最モ緊要ニシテ市内交通施設ノ重複ヲ避ケ其ノ混亂ヲ防止スルト共ニ公營事業ノ投下資本ヲ保護シ其ノ健全ナル發達ヲ期セんカ爲ニハ左記方法ニ依ルノ外其ノ途無シト思考閣下這般ノ事情御賢察ノ上明鑑ナ垂レサセラレ其ノ目的ノ達成ニシキ特ニ御配慮アランコトヲ切望ノ至ニ堪ヘス

右市制第四十六條ニ依リ意見書提出候也

昭和六年五月二十九日

大阪市會議長 白川朋吉

内務大臣 安達謙藏殿

記

一般道路ヲ使用スル一定ノ路線ニ依ル運輸事業ノ免許、許可若ハ運輸路線變更ノ免許、許可ニ關シテハ道路管理者ノ同意ヲ得タルモノニツキ證義セラレタキト

二 地方公共團體力已ニ軌道其ノ他一般運輸事業ヲ自ラ經營セ

ル場合ニ於テハ前項ノ外其ノ運輸系統、運輸時刻、運轉車數、
發車回數、停留所ノ位置、運貨制度等苟モ公共團體經營ノ事
業ニ影響アル事項ノ設定變更ハ豫メ公共團體タル事業經營者
ノ意見ヲ徵シ處分セラルコト

三 私營運輸事業ノ免許、許可ニ際シテハ他日公營トナシ得ル

様事業ノ全部又ハ一部ノ強制買收ニ關スル事項ノ條件ヲ附セ

ヲレタキコト

四 自動車運輸事業以外ノ自動車ニ依ル運送事業例ヘハ「タク
シー」等ノ營業ニ對シテモ道路管理者ノ同意ヲ得タルモノニ
ツキ免許其ノ他ノ處分ヲナサレタキコト

以上

道路職員講習會ニ關スル件

年度會計報告を爲す。評議員阪本鉄之助氏は、本會機關雜誌「道路の改良」が常に其の内容を精選し斯界稀に見る良誌なることを賞讃すると同時に其の經營方針の確實なるを稱え、當局者の盡力を感謝するの挨拶あり、萬場一致之を承認したるを以て昭和六年度一般會計歲入出豫算及特別會計歲入出豫算を附議し滿場一致可決した。

◎本會評議員會及第十二回會員總會開會

本月二十日午後二時より丸ノ内日本俱樂部に於て評議員會及第十二回會員總會を開いた。出席者は水野會長内田副會長を始め、評議員橋本圭三郎氏外十六名、會員淺野總一郎外一名出席、水野會長は座長席に就き、出席者數法定數に達したるを以て會員總會及評議員會を合併開會すべき旨を宣し、左の昭和五年度の事務を報告し、山田理事昭和五

客年七月二十一日ヨリ一週間第五回道路職員講習會ヲ東京市ニ於テ開催シタリ聽講者ハ内地ハ勿論朝鮮、臺灣、關東州ノ各地ヨリ參集シ其ノ數百四十七名ノ多キニ達シタリ講習ハ技術ニ關スルコトナ主トシ道路材料、銅橋、隧道、道路構造及鐵筋混凝土等ニ關スルモノ土木行政並ニ道路行政ノ概要ヲ講述シ更ニ科外トシテ地震ト道路技術トノ關係、道路技術ニ關スル所感及海外道路ノ狀況等ニ關スル斯界權威者ノ講演アリ尙實地見學トシテ帝都復興事業及東京市内街路工事ヲ視察セシム所アリタリ講師ハ內務省、內務省土木試驗所、鐵道省警視廳等各官廳在職ノ實際家ヲ充テタルヲ以テ聽講者ハ孰レモ満足シタルモノノ如ク本事業ノ目的ハ十分達セラレタルモノト信ス

道路改良事業起興方建議ノ件

近時經濟界ノ不況ニ伴ヒ失業者簇出シ之ガ對策ナ講ズルノ殊ニ急務ナルヲ認メ昨年六月二十日理事會ナ開キ調査攻究ナ遂ゲタル結果道路改良事業ヲ起シテ失業者ナ救濟スルノ最モ適切ナルヲ認メタルヲ以テ之ヲ政府ニ建議シタリ且特ニ理事山田英太郎監事橋本圭三郎兩氏ハ同年七月三日内閣總理大臣ナ同十日内務大臣兩大臣ヲ訪ヒ詳細ニ建議ノ趣旨ヲ縷述シ速ニ相當ノ計畫ナ樹立セムコトナ建言シタリ政府ガ此種事業ノ爲メニ地方ノ起債ナ緩和スルト共ニ昭和六年度豫算ニ於テ失業救濟公債ナ計上シテ國道及府縣道ノ改良ヲ計畫スルニ至リタルハ本會ノ建議亦與リテ力アリタルナ信ス

事務打合會ニ關スル件

政府ハ失業救濟道路改良事業ヲ計畫シ之ガ事業ノ實施ニ關シ地方土木主任官ヲ招集シタルヲ以テ本會ハ此機會ニ於テ事務打合會ヲ開催シタル出席者ハ道府縣土木主任官中央關係諸官多數ヲ占メ水野會長ハ本會ノ業績ヲ詳述シ出席諸員ノ援助ヲ謝スルト共ニ失業者救濟政策トシテ道路事業ヲ起スノ時宜ニ適シタルヲ喜ビ且之カ成績ヲ舉クルト否トハ社會政策上並ニ路政上ニ影響スル所頗ル大ナルモノアルヲ以テ局ニ當ラルヘキ土木主任官ノ努力ナ希望スル所アリタリ

海外派遣員ニ關スル件

海外道路ノ情況ヲ視察シ之ナ我邦道路ト比較研究シテ道路ノ改善ニ資スルコトハ本會ノ常ニ意ナ用フル所ナリ偶客年十月六日ヨリ同十一日迄北米ワシントンニ於テ萬國道路會議開催セラレ我邦ニ於テハ內務技師藤井眞透氏ナ派遣スルニ至リシナ以テ本會ハ同氏ニ右會議ノ情況並ニ歐米各地ニ於ケル最近道路情況ノ視察ヲ嘱託シタリ同氏ハ目下旅行中ナルヲ以テ歸朝ノ上ハ報告書ヲ提出セラルヘク是等ハ本會機關雜誌ニ登載詳報スル所アルヘシ

道路資料刊行ニ關スル件

汎ク内外ニ涉リテ道路ニ關スル資料ヲ蒐集シ之ヲ刊行頒布シテ道路關係者ノ参考ニ資スルコトハ極メテ必要ノコトニ屬スルヲ以テ本年度ニ於テ之ガ刊行ヲ期シタリシニ資料ノ取捨選擇ニ日本子ヲ要シ年度内ニ刊行ヲ見ル能ハサリシハ遺憾ナリシモ海外ニ於ケル道路技術並ニ事務ニ關スル資料及國內ニ於ケル樞要地ノ道路狀況、鋪裝種類ノ面積及之ガ工法等ニ關スルモノハ既ニ脱稿シ目下校訂中ニ在ルナ以テ近ク之ヲ刊行シテ其普及圖ラムトス

雜誌發行狀況ニ關スル件

機關雜誌「道路ノ改良」ハ發行後既二十餘年ヲ累ニ常ニ誌面ノ充實ト記事ノ精選トニ力ムル所アルヲ以テ經濟界不況ノ今日ト

雖甚敷影響ナ蒙ルコトナク本誌普及ノ範囲ハ遠ク朝鮮、臺灣、關東州、中華民國ニ及ビ方ニ東洋ニ於ケル有力ナル道路雑誌ヲ以テ視ラル・ニ至レリ今後益々紙面ヲ改良シテ本誌發行ノ目的ニ副ハシゴトナ期ベ

會員ノ狀況ニ關スル件

本會員年度末現在數ハ五百三十三名ニシテ前年ニ比シ三十五名チ増加シタリ右増加ハ岩手、石川、岡山、山口、千葉、茨城等各地ヨリ加入者アリタルニ由ル贊助員ハ五千七十二名ニシテ前年ニ比シ三百三十七名チ減ジタリ之レ主トシテ方今財界ノ不況ニ因ルモノニシテ不得止ノ事態ニ屬スレドモ之が補充ニ就テハ今後一層努力スル所アラントス

次て特別會員推薦の件を附議し左の諸氏を特別會員に推薦することに可決。

内務政務次官 古屋慶隆君

内務參與官 小山谷藏君

鐵道政務次官 末松偕一郎君

鐵道參與官 中島彌園次君

内務省都市計畫課長 清水良策君

道路改良會評議員

(山田・丹羽兩理事調査)

參謀本部第三部長 沖直道君

東京府知事 牛塚虎太郎君

東京市長 永田秀次郎君

京都市長 土岐嘉平君

大阪府知事 柴田善三郎君

神奈川縣知事 關一君

橫濱市長 山縣治郎君

兵庫縣知事 岡正雄君

神戶市長 黒瀬弘志君

愛知縣知事 香坂昌康君

名古屋市長 大岩勇夫君

日を以て任期満了するを以て互選すべきことを宜す、村井

二郎吉氏は、會長の指名に依り決定すべきことの動議を提出し滿場一致之に賛したるを以て、水野會長は左の諸氏を評議員に指名した。

議評員

井上準之助君

池田成彬君

大塚勝太郎君

池田宏君

岩井重太郎君

石渡敏一君

岩田惣兵衛君

伊藤武彦君

原田六郎君

原田貞介君

長谷川久一君

服部金太郎君

林博太郎君

濱口雄幸君

鳩山一郎君

橋本圭三郎君

八田嘉明君

丹羽鋤彥君

計畫課本部
第三部長内務省都市
大島辰次郎君

吉田丹次郎君

東京市長

村井二郎吉君

横濱市長 大西一郎君

兵庫縣知事岡正雄君

名古屋市長大岩勇夫君

渡邊勝三郎君

富田勇太郎君

堀切善次郎君

床次竹二郎君

大川平三郎君

岡崎久次郎君

岡崎邦輔君

小川平吉君

織田昇次郎君

岡崎國臣君

片岡直溫君

河田烈君

河津退君

加藤久米四郎君

笠置正太郎君

加賀山學君

鐵道參與官

中川吉造君

園琢磨君

武富時敏君

田中廣太郎君

相馬牛治君

津村重舍君

次田大三郎君

内藤久寛君

根津嘉一郎君

長岡外史君

中島久萬吉君

成瀬成恭君

那波光雄君

中川正左君

長岡隆一郎君

直木倫太郎君

中野金次郎君

永田秀次郎君

東京府知事	牛塚虎太郎君	内田嘉吉君
上野安太郎君	潮惠之輔君	
串田萬藏君	増田義一君	
日下部辨次郎君	前田利定君	
黒河内四郎君	松岡均平君	
久保田敬一君	松岡均平君	
來島良亮君	前田利定君	
黒瀬弘志君	松岡均平君	
山下龜三郎君	前川貫一君	
山田英太郎君	藤山雷太君	
山本悌二郎君	古河虎之助君	
柳澤保恵君	古市公威君	
山縣治郎君	福田雅太郎君	
矢野恒太君	福澤桃介君	
山田博愛君	藤原俊雄君	
馬越恭平君	秋田清君	
松方巖君	佐々木勇之助君	
愛知縣知事	佐上信一君	
香坂昌康君	坂本彰之助君	

神戸市長	黒瀬弘志君	手冢猛昌君
内務次官	古屋慶隆君	田浅田徳則君
政務次官	福澤桃介君	有賀長文君
内務次官	藤原俊雄君	赤星陸治君
政務次官	秋田清君	阿部吾市君
内務次官	佐々木勇之助君	青木周三君
政務次官	坂本彰之助君	明石照男君
内務次官	菊地長四郎君	秋田清君
政務次官	木村久壽彌太君	佐々木勇之助君
内務次官	桐島像一君	佐上信一君
政務次官	木村清四郎君	坂本彰之助君
内務次官	結城豊太郎君	木村久壽彌太君
政務次官	湯淺倉平君	木村清四郎君
内務次官	水野鍊太郎君	結城豊太郎君
政務次官	宮崎通之助君	湯浅倉平君

大阪市長	内務省道課長	手冢猛昌君
内務次官	大阪府知事	田浅田徳則君
政務次官	道路課長	有賀長文君
内務次官	清木良策君	赤星陸治君
政務次官	島重治君	阿部吾市君
内務次官	白石元治郎君	青木周三君
政務次官	篠原英太郎君	明石照男君
内務次官	瀧澤繁君	秋田清君
政務次官	杉浦宗三郎君	佐々木勇之助君
内務次官	杉原榮三郎君	佐上信一君
政務次官	末延道成君	坂本彰之助君
内務次官	物部長穂君	木村久壽彌太君
政務次官	杉浦宗三郎君	木村清四郎君
内務次官	末延道成君	結城豊太郎君
政務次官	杉浦宗三郎君	湯浅倉平君
内務次官	鈴木梅四郎君	水野鍊太郎君
政務次官	鈴木富士彌君	宮崎通之助君

次て評議員會を開き、理事及監事互選の件を附議したるに村井二郎吉氏會長の指名に依るべき動議を提出し、滿場一致之に賛成したるを以て、水野會長は左の諸氏を理事及監事に指名し、午後四時散會した。

理事及監事

(山田、丹羽兩理事調査) (イロハ順)

理事氏名

丹羽 七郎君	黒河内四郎君
丹羽 武朝君	山田英太郎君
堀切善次郎君	松木幹一郎君
沖直道君	牧彦七君
寛正太郎君	前川貫一君
中川正左君	佐上信一君
中島久萬吉君	桐島像一君
長岡隆一郎君	水野鍊太郎君
中川吉造君	宮崎通之助君
内田嘉吉君	三邊長治君
久保田敬一君	物部長穂君

監事氏名

橋本圭三郎君
大橋新太郎君